

あなたがここにいるから...2nd



4年ぶりの雪浦ペーロン

地域と共にある雪浦小学校にとって、今年はずいぶん楽しい出来事が続きます。

新型コロナの影響で中止が続いていた「雪浦ペーロン」が、4年ぶりに復活、6月25日（日）、盛大に開催されました。

当日は朝からあいにくの雨模様。しかし雪浦地区公民館周辺には、多くの地域の方々の姿が見えます。雪浦地区みなさんの願いが通じたのか、雨もさほどひどくならず、予定通りに開催されることが決定しました。

さっそく本部テントにご挨拶に伺うと、大会を主催された雪浦地区公民館長の田中正博様をはじめ、関係の方々の表情も、いつも以上に晴れやかでうれしそうに見えました。

その後、出場される雪浦各地区のみなさん、応援のみなさん、沿道で観戦されるみなさん、続々と集まってきます。どの方もとびきりの笑顔で、この大会を楽しみにしておられたことがその表情から存分に伝わってきました。

私自身、雪小に赴任して2年目となりますが、コロナ禍を経て、こんなにもたくさんの方々が一堂に会する場面を見るのは初めてでした。それを見るだけで私のテンションは上がり、とても楽しい気持ちになりました。



開会式後、最初のレースが行われました。聞くところによると、各地区ともほぼぶっつけ本番とのこと。

しかしながら、どのチームも息ぴったりに櫂（かい）をさばきます。



雪浦地区の団結力、絆の強さを感じた次第です。

開会式で田中館長様から、「あくまでも親睦です。無理をしないように。」といったお話がありましたが、どのチームもレースが始まると、真剣そのものです。白熱した戦いが繰り広げられました。

そしていよいよ、楽しみにしていた親子ペーロン体験の時間です。



救命胴衣を身にまとったわれらが雪小っ子、多少緊張しながらも、ワクワクしている様子です。うれしいことに5・6年生全員が参加することができ、男女チームに分かれてレース形式で体験させていただきました。



※裏面に続く

※表面から続く

体験後は、雪小っ子も保護者のみなさまも、一層笑顔がはじけていました。

私たち雪小職員も、それぞれのチームに分かれ、漕ぎ手として参加させていただきましたが、銅鑼（どら）の音に合わせ、掛け声とともに雪小っ子と一緒にペーロンを進めた今回の体験は、何事にも代えがたい喜びと貴重な思い出となりました。

雪浦地区公民館の田中館長様をはじめ、大会運営にかかわってこられた関係のみなさま、親子体験ペーロンの実施に中心となってご尽力いただいた岩下 PTA 会長様に、心からお礼申し上げます。

ありがとうございました。

命をみつめる。違いを認める。

6月24日から30日は、「雪小っ子のいのちをみつめる週間」として、様々な学習活動を設定しています。

26日には、全校集会で雪小っ子とともに「一人一人がもつかけがえのない命」について考えました。



雪小っ子43名は、みんなそれぞれに違う。だから決して比べたり責めたりせず、その違いを認め合って生活していくことが自分や友達のを大切に第一歩だということであらためて確認しました。

その後、福祉体験学習として、西海市社会福祉協議会のご協力のもと、雪浦小学校の卒業生でもあり、現在も雪浦地区にお住いの林和明様からお話をいただきました。



視覚障害を抱えながらの日常生活の実際、私たちにできるお手伝いの仕方や白杖、点字ブロックについてのお話を伺いましたが、ユーモアを交えた林様の魅力あるお話しぶりに雪小っ子はすっかり引き込まれ、様々な発見、気づきをもつことができた様子でした。質問コーナーでは、時間が足りないくらい多くの手が挙がっていました。

「違いを認め、お互いに助け合って生活することの大切さ」への理解を一層深めることができた貴重な機会となりました。

このほかにも、見つめる週間として以下の取組が設定されています。

29日（木）道徳授業参観、懇談会、
学校保健委員会

30日（金）いっちゃんコンサート

市原隆靖さんのいっちゃんコンサートは、どなたでも参観いただくことができます。

13:50から体育館で開催しますので、ふるってお集まりください。

（文責 校長）